



第2514回例会（16／17年度第45回）  
平成29年6月9日（金）

※ 本日はリハーサル例会を開催いたしました。

■ 点鐘並びに開会宣言 ～黒川 俊一 会長エレクト

■ 斉唱 ～ソングリーダー 佐保田 實 会員

R ソング「我等の生業」

■ お客様紹介 ～親睦活動委員会 佐野 和人 委員

高梨 憲爾 様（高津区長 本日のゲストスピーカー）

佐藤 一憲 様（高津区役所まちづくり推進部総務課）

高村 龍蔵 様（鈴木克明会員ゲスト）

■ 会葬の御礼 ～筒井 進 会員

過日の妻の葬儀には大勢の皆様にご挨拶、また御芳志をいただき有難うございました。昨年の納涼家族会参加後体調を崩しその後脳腫瘍と分かり5月27日永眠いたしました。会員の奥様方にもいろいろお世話になり有難うございました。

■ 理事会報告 ～黒川 俊一 会長エレクト

①5月現在の会員の動向ですが、7名の入会に対し1名の方が亡くなられ、2名の退会があり、純増4名となっております。また4名の方から6月末をもつての退会届をお預かりしております。只今慰留の方向で対応しておりますので、その結果につきましては、後日報告いたします。

②先般のクラブフォーラムでの理事会扱いの件ですが具体的な対応ができませんでしたので特別委員会に諮問することになりました。

■ 会長報告 ～黒川 俊一 会長エレクト

①地区より「ロータリー財団資金推進」への協力依頼がありました。近年はクラブからの地区補助金申請が多くなり、皆様からの要望に応える為にも、寄付の重要性をご理解下さい。

②6月26日（月）に第44回高津区民祭実行委員会が、高

津区役所で開催されます。担当の田中宏幸 次年度社会奉仕委員長、ご出席をお願いいたします。

③訃報のお知らせでございます。

当クラブ片岡登美夫会員の奥様、静江様がお亡くなりになりました。享年80歳でした。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

④鈴木会長より皆様へのコメントをお預かりしておりますので、代読させていただきます。

「6月3日（土曜日）呼吸困難の為掛かりつけの内科に連絡し診断に伺ったところ、呼吸器の問題で即入院となりました。残り1か月の処、皆様にご迷惑をお掛けして大変申し訳ありません。状況がわかり次第、ご連絡いたします。どうぞ宜しくお願い致します。」

■ 幹事報告 ～上松 義典 次年度幹事 会報裏面をご覧ください

■ 各委員会報告

□ 出席委員会

本日	会員数	対象者	出席	欠席	出席率
2514回	72名	67名	51名	16名	76.1%
前々回修正		メキップ 0名	0名	10名	84.8%

□ 社会奉仕委員会 ～渡邊直人委員長

6月4日多摩川の美化活動に会員16名会員家族2名の計18名で参加して参りました。今回は高津区が幹事地区ということで行いました。その後吉田農園をお借りして反省会をさせていただきました。

■ 卓話「高津区のこれからについて」～高梨 憲爾様

ご紹介をいただきました高津区長の高梨でございます、本日は限られた時間ではございますが、高津区が力を入れている取り組みについてご紹介をさせていただければと思います。私は2年2ヵ月前に高津区役所に参りました。

皆さま方ご承知のとおり区役所は窓口で手続きですとか、住民票の謄本をお出しするような仕事が主体で、あとは国民健康保険とか年金とか、保育園の認証申請、特別



養護老人ホームですとか、身体障害者、障害者の入所相談とか一般的には法定受託事務とか自治事務とか言われているものなのですが、実は区役所の大きな仕事が、地域課題対応事業というものになります。これは、それぞれの区役所が地域の実態に即して魅力あるまちづくりをしましょう。これは区民の皆様と一緒に知恵を出し、一緒に汗を流し、そして作り上げる。そういった取り組みをしようというのが中心の業務になります。

高津のまちづくりということですが、今どんな姿を目指しているのかというと、昨年作りました区の計画の中では、目指すまちづくりの姿ということで、歴史と進歩が調和した心豊かな安心して暮らせる町ということの一つのスローガンとして掲げています。先月高津区の人口が23万人を超えましたけれども、新しい住民の方とその活力というのが今高津区の中で芽生えている。そうしたものが、一緒に融合しながら古いものを活かしつつ、新しいものも取り入れて、そういったまちをつくる。物質だけではなく、心の豊かさ、精神的な豊かさ、それがあってこそ安心して暮らせる。そうしたまちをつくっていききたいということで、今高津区の方ではこういったスローガンを掲げています。その中で、特に地域課題に対応した取り組みということで、6項目主な取り組みとして挙げております。

- 1) 地域資源を生かした魅力あるまちづくりの推進。
- 2) 多様な姿態と連携による地域コミュニティ活性化の推進。
- 3) 総合的な子供子育て支援の推進。
- 4) すこやか支え合いのまちづくりの推進。
- 5) 安全安心まちづくりの推進。
- 6) 区民との共同で進める環境まちづくりの推進。

この「まち」を使うのは、従来の町とか街ですと、何か物をつくるハード的な住宅をつくったり施設をつくったり、だけではなくて、まちが持っている昔からの歴史ですとか文化ですとか芸術とか環境、そういった目に見えないものを大切にしていこう。そうしたものをそこに住んでいる人たちと一緒に守りつくり上げていこう。そうした意味を持つということ、このまちを使っていくと、私は思っています。人とのつながり、こころのつながり、そうした精神的なものを含めて一緒につくる、その精神的な礎もつくる。高津区もそういった意味ではひらがなのまちを使っていきたいと思っています。

ここで、区役所の取り組みをご紹介します。

まず、安全安心なまちづくりの推進。いわゆる地域防災力の強化というものでございます。背景といたしましては、今全国的に大規模な自然災害が発生をしています。もしかしたら川崎でも起こるかもしれないということです。では、そうした中で高津区が抱えているそのリスクというのはどんなものかと言いますと、まず地震については、今後30年間に首都直下型地震、マグニチュード7クラスの直下型地震が起きる確率というのが、70%あるというふうに言われています。また、浸水害については、高津区は北に多摩川、そして西の方には矢上川、鶴見川が流れておりますし、こうしたところでももしかしたら氾濫するかもしれない。あるいは橋地区を中心として、多摩丘陵の一部が高津区の方にもございますけれども、そうしたところが大雨によって落石、土砂崩れも起きるかもしれない。そうしたような懸念もあります。実は、平成27年の9月に起きた鬼怒川大水害ですが、ある専門の方の話によりますと、その線上降雨帯というのがもう少し西の方に場所がずれていれば、多摩川が鬼怒川と同じようなことになっていたのではないかとされておりまして。

一方で区民の皆様意識調査では、不安に思っている、あるいはやや不安に思っているという人が合計38%という回答をいただきました。またその地震に対する不安の内容はどんなものですかという質問に対しては、家族や自分自身の身の安全への不安というようなものが約50%。中でも未就学児をお持ちの世帯では約70%、地震以外にどんなことが自分の住んでいるところで不安ですかという問いに対しては、河川の氾濫というものをあげた方が一番多かったです。

じゃあご自分たちが防災訓練に参加されたことはありますかという問いに対しては、11%ぐらいしか参加したことがないですということです。まだまだそういった地域の訓練への参加は低いかと思っておりますし、またご自分たちの水や食料の備蓄はどうですかといったことに対しては、48.2%ということで、半数以下の方たちが備蓄にもまだ対応ができていないというような状況であります。

こうしたことを踏まえて、今後どのように高津区は取り組んでいかなければいけないかということなのですが、一つは、やはり一番大切なのは命を守る。自分で自分の命を守る。そして行動をとる。いわゆる自助です。

次が互助、共助といったところですが、これについては今高津区では市内に先駆けるような形で防災ネットワーク会議というものをつくっております。

最後に住民がお互いの人格と個性を尊重しながら共生し、この地域の防災とともに地域の人づくり、つながりづくり、この点を重点的に取り組んでまいります。